



# 黄河の森

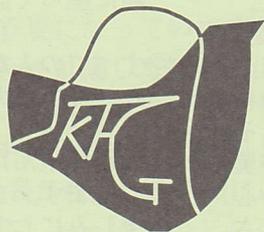
## K F G

発行／特定非営利活動法人  
黄河の森緑化ネットワーク  
常務理事・事務局長／矢野正行  
編集責任者／小川良太

〒650-0011  
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11  
神戸華僑会館内  
TEL・FAX:078-392-8328  
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp  
URL:http://www.kobe-chinese.com/kouganomori  
IP:05031111874



オトカ前旗で20年度以降の事業協議をおこなう。  
右端はカウントパート代表 陶迪さん



ああ あの大河 太古より 流れる誇り  
ああ その緑 永久に たやさぬ心  
燃えたつ生命 ここに ここに

### CONTENTS

- P.2 事務局からの報告「2020年度の活動見通し」  
銀川市で日本語を学ぶ学生たちと交流
- P.3 庭木の健康診断23  
絵本からのメッセージ30
- P.4 中国便り「美しき反撃者」

事務局からの報告

# 2020年度活動の見通しと第17回総会について

## 中国での活動状況について

日中緑化交流基金の助成による内モンゴル自治区オトカ前旗での、9年間にわたる植樹支援事業は19年で終了しました。フルス村・ハリサリ村・フルフカサ村の3地区で延べ300haの植樹を行いました。これにはカウントパートのオトカ前旗婦女協会が中心となり、オトカ前旗市当局の協力のもとでの事業でした。この間天候・病虫害等の大きな障害も無く、概ね順調に事業を進めることが出来ました。これらの植樹地域では今後も一定期間の病虫害・野生動物等の食害からの保護などの管理事業が必要となります。このため昨年度から管理事業への支援を行っております。

事務局では次の事業展開のために、新たな助成団体の支援を受けるべく昨年来検討しておりました。しかし、年初からの新感染症の影響で、活動の見通しが立たない状況のため、その作業を現在は中断しております。しかし21年度には支援を受けられるように、準備を進めておきたいと考えております。

甘粛省蘭州市での植樹活動は第5期（17年単年度契約）事業終了後は、新規事業の契約ができておりません。これは中国政府の国内政策の方針変更の結果、外国NPO法人の活動に大きな制約が伴うことになり、

契約に至らず19年度末で終了することになりました。

## 国内活動

身近な環境保全活動の一環として、国土交通省六甲砂防事務所から植樹地。苗木を始めとした資材等の提供を受け、神戸市東灘区内の「六甲山住吉山手植樹基地」で植樹・撫育活動を行ってきました。今年も3月の補植・下草刈りを計画しておりましたが、新感染症のため実施は見合わせました。

## 第17回 通常総会について

第17回通常総会は例年通り5月の開催を目指して準備を進めておりましたが、新感染症による緊急事態宣言が発令され、多人数での集会・会議開催の自粛が求められたため例年の形での開催は断念することになりました。ただ、会員の方々のご意見を伺うためにも万全な形ではありませんが、議案の議決は郵便投票によることとして、議案書の郵送を5月上旬に実施しました。

総会の審議は神戸市中央区の事務局で、6月27日（土）に理事・監事11名が出席し、寄せられた投票書・委任状をもとに開催し原案通り承認されました。その概要は以下ようになります。活動費は総額101万5千円と中国への植樹支援助成金が無くなった分大幅減になってお

ります。しかし上記のように、オトカ前旗の植樹地での管理業務は継続する必要があるため、支援として15万円の支出を予定しております。その他の活動経費は例年通り予定しております。

理事の選出については現理事全員が留任となりました。なお2004年会の発足以来、ご専門の植物学の立場から現地での植樹、あるいは会の運営面についてもご指導をいただいていた顧問の徳岡正三氏から辞任の申し出がありました。しかし、これまでの会での大きな役割を果たしてきていただいていたこともあり再考をお願いしたところ、今後も名誉会員として会に残っていただき、会の活動を見守っていただくこととなりました。

## 今後の活動について

中国への植樹ツアーは新感染症の影響による出入国・航空便の停止もあり、今年度は中止とします。

国内では「六甲山住吉山手植樹基地」の森づくり事業・クリーンアップ活動については3・6月の活動は見合わせましたが、新型感染症の鎮静化が認められれば再開を予定しております。実施についてはホームページ等によりお知らせします。



## 銀川市で日本語を学ぶ学生達と交流

昨年ツアーで訪れた銀川市の遼寧理工学院日本語科2年生の学生たちとの交流会を持ちました。植樹地での若い人達に日本の市民による植樹事業への、理解と共感を得ることを目標としたツアーでの恒例となった交流会です。今回も多くの方が参加してくれました。我々は植樹事業の意義・目的などを伝えましたが、学生たちの日本語力の高さに驚きました。今年になって学生たちから参加の感想が送られてきましたので以下に紹介します。

ご協力をいただいた学院日本語科教員・参加学生の皆様に感謝を申し上げます。（感想文は誌面の制約上一部しか掲載できませんでした。掲載文は原文のままです。）

◎お客様の話を聞いている中で、私達も自分の学習の目標を見つけ、日本語学習への動力を得ました。

（邹静芝）

◎あなた方が来てくれてありがとうございます。あなた方のような善良なボランティアがいるからこそ、私たちが一緒に住んでいる家が美しくなります。あなた方の献身心に感謝し、異郷からの愛を感じさせていただきました。私達と辛抱強く交流して、日本の文化について説明してください。私達はたくさんのことを学びました。ご健康をお祈りいたします。団体はますよい方になりますように。

（王冬雪）

◎今年の子供のひはとても特別です。

おじいさんと話してとても楽しかったです。そしておじいさんは本当に優しいです。このような生き方が大好きです。健康と幸せを祈ります。また機会があったら一緒に座って話してください。

（—しゅうげん周源）

◎すべての人が一つの力をささげると、環境は大いになる。

（张佳媛）

◎お爺ちゃんたちは偉大なことをしています。またお会いできるのを楽しみにしています。ご健康をお祈りします。

（尚靖）

（他に以下の方々にも文章を寄せていただきました。呉楽微・邓小容・安艳娟・刘天姿・巩梦丹・鲍忠玉・王倩・师寒悦・赵鹏・侯冬雪・巨苗苗・杨鑫・陈洁） 敬称は略

# 私と環境(32) 庭木の健康診断 ②③

## 庭木の手入れ 《寄生植物》

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」  
天 野 孝 之

今回は一般家庭の庭木にはほとんど発生しないヤドリギの話しましょう。一般家庭の庭木ではなく、団地マンション敷地内、または近くの公園などでよく見かけるヤドリギ類です。関西ではヤドリギ、マツグミ、オオバヤドリギ、ヒノキバヤドリギなどがよく見られます。このうち最もよく見られるのがヤドリギです。一般に植物は土の中に根系を張り巡らせ、水分や養分を吸収し、茎、枝、葉へと運び、葉で光合成をおこない生活に必要な養分に変換しています。しかし中には生活に必要な養分を他の植物に頼っている植物があり、それらを寄生植物と呼んでいます。寄生植物は、他の植物(宿主)の一部に付着し、枝や幹に寄生根を

侵入させて栄養分を吸収しています。自らも葉緑体を持ち光合成を営むものを半寄生植物、葉緑素を持たずすべての栄養を宿主に頼るものを全寄生植物と呼んでいます。ヤドリギ(ビャクダン科ヤドリギ属)は、ケヤキ、エノキ、サクラ類などの落葉広葉樹の樹上で寄生しています。ヤドリギ類の中でも最も普通にみられ、大きくなると直径1.5mほどの樹冠を形成し、時にはその重量で宿主の枝が折れる場合があります。枝は1年に1回二股に分枝するといわれています。雌雄異株で、雌株のほうが少ないです。黄色い半透明の液果が秋～冬に熟し、レンジャク類などがよく飛来し、実をついばんでいます。糞とともに排泄された

種子が新たな感染源となります。実を食べるとゼリー状の少し甘みを感じますが、しかしえぐみを感じ、粘りがありいつまでも口中に残ります。ヨーロッパの北国では、枝葉をクリスマスに飾り、ヤドリギの下では誰にキスをしてもよいといわれています。このため、クリスマス前夜に森に出かけ、ヤドリギを採取して部屋の中に飾りクリスマスを楽しみます。落葉樹の多い北欧では、冬でも常緑であるヤドリギは何か神秘的なものを感じるのでしょうか。日本でも正月に常緑樹の松類を飾るのは、常盤の繁栄を常緑樹に委ねているのと同じ使われ方にも通じます。



多数のヤドリギが寄生した枝垂れ桜



桜の枝にしっかりと食い込んだヤドリギ



上半分(緑で囲まれた部分)がヤドリギの枝2本あります  
根が桜の枝中心までくさび状に伸びています



### 絵本からの メッセージ 30

### 「どうぞのいす」

畑 中 弘 子 (児童文学者)

今年はずっと違う夏になっています。海や山へ出かけたり、久しぶりの再会を喜んだり、海外旅行を計画したりと沢山の楽しい思い出をつくるはずの方も多かったことでしょう。けれどコロナ禍のもと、しばらくは思慮深く動くことになりそうです。そんな中、心癒される可愛い絵本、「どうぞのいす」を見つけました。

「どうぞのいす」と書かれた立札の横に、うさぎさんの作った椅子がありました。ろばさんがやってきて、いっぱいのだんごりを椅子の上に置き、木の下で眠ってしまいます。その間、まずやってきたのが蜂蜜を持ったくまさんです。「どうぞのいす」をみて、だんごりを有難くいただきます。そのままでは申し訳ないと、蜂蜜を置いて帰ります。次にきた、焼きたてパンを持ったきつねさんも、その次の栗をもったりすさんたちも、同じようにします。そして目をさましたろばさんは大びっくり。「あれれえ。だんごりってくりのあかちゃんだったかしら」。絵も文も可愛い楽しい絵本です。



作：香山美子  
絵：柿本幸造  
(ひさかたチャイルド)

中国  
便り

美しき反撃者

楊 玉 麗

(中国 銀川市在住)

普段の  
私たちの身体には温かい血が流れる  
優美な女性です。  
そして、優しさと慈しみある母でも  
あります。  
人に寄り添う心もあります。  
私達は肺癌病棟の専門看護師です。  
私達は末期癌患者の最後の依り所。

今日  
新型コロナウイルスの患者に接した。  
我々は病と対峙する強き戦士です。  
我々は白衣の天使。  
心臓疾患科のスタッフは、何を置  
いても立ち上がった。  
準備は出来ている、戦いに向かおう  
美しき「反撃者たち」。

48歳の副主任看護師が最初に名  
乗りを上げた。  
「私が行きます」。  
重症治療室の我々は困難な症状の  
ときこそ、その力を最も発揮しま  
す。  
旅立つ前、  
彼女は勤務を終えて家に帰ると、  
最愛の娘が驚き・戦かないように、  
優しく・冷静に話かけた。  
「お母さんは新しい病気と戦うた  
めに武漢へ行くことになったの。  
あなたは、家で一人で待って居て。」  
娘は驚きベッドの上で飛び起きた。  
そして、両目に涙をためた。  
母親が危地に赴くことを承知でき  
なかったのだ。  
しかし直ぐに涙を拭くと、微笑み  
ながら、言った。  
「お母さんは病気の人達のために  
行ってあげて。私のことは心配し  
ないで。一人で食事の支度くらい  
はできるから。」

独身の若い看護師は、  
銀川での帰り道、自ら名乗り出た。  
「私は軍隊で訓練を受けました。  
だから行く責任があります。」  
彼女は両親と短い時間を過ごした  
後、何も言わずに二人を残して旅  
立った。

「私は後から来る人のため、道を  
切り開きます。」  
湖北省に着いて始めて、両親に事  
情を告げた。

しかし、両親は一言の恨み言も言  
わずに、「今は、スマホで話すこ  
ともできるから」と、納得してく  
れた。そして「おまえは私達の誇  
らしき宝物だ。」と言ってくれた。

同僚達は家から、日用品や日記帳  
・非常食を送った。

一人の若い看護師は、防護服を着  
けるとトイレにも行けなくなるか  
らと、紙オムツを買ってきた。  
夜勤の看護師達は、連夜激励の  
メッセージを書いた。

早朝班は勤務後、皆で「一条路」  
を合唱した。

「心を一つにして、唯一筋の道を  
ひたすらに進もう」。

「皆で心を一つに合わせて」。

関連診療科の看護師達も次々と名  
乗りを上げてきた。

肺癌科の二人の勇敢なるもの。  
看護チームの模範であり、最大の  
誇りである。

診療科の女性たちの意識は高い。  
皆それぞれの役割を果たしている。  
彼女たちの技量は修練され高い。  
団結は力なり。

相次いで9人の看護師達が請願書  
に署名をした。

看護士長から年長医師・幼児の母  
親まで。

私達は同時に、病室の任務も果た  
さなければならない。

荷物の準備はできた。

出発の時がきた。

出発の笛が吹かれた。

もし、あなたが肺癌患者ならば、  
私達は寄り添うことでしょう。  
疫病があれば病を避ける人とは逆  
に、私達は対峙するでしょう。  
私達は病に対抗する強固な防護の  
壁を、立ち上げ立ち向かいます。  
静穏な日々を取り戻すことを願っ  
て。

全国の人々が、私達に期待してい  
る。

人々は緊急の時と同じく、日常の  
健康維持活動も、重要なことと  
思ってくれている。

私達は優美な反撃者。

天も助けてくれるだろう、勝利し  
なければ。

中国・湖北省、がんばろう。

寧夏医科大学総医院、がんばろう

中国での新感染症禍は西北地方の  
銀川市をも襲いました。その際、大  
学病院に勤務する筆者も最前線で奮  
闘されました。中国全土から武漢市  
に医療従事者が支援に派遣されまし  
たが、筆者の職場からも派遣される  
人達がありました。その際の職場の  
人達の気概と葛藤の一コマです。  
これは筆者が「宁夏护理学会」誌に  
投稿した詩です。

\*\*\*\*\*

会費・緑化支援金等協力者のお名前 (2020.1.1~2020.8.31現在)

●前号で掲載できなかった会員も含まれています。  
●順不同・敬称略

李雲精	譚佐華	村上鷹夫	竹本由美	西川鎮江	池田智	蔣政茂	文啓財
麥兆良	江洋龍	中谷安廣	馬文璧	樽岡千栄	四方田文夫	村井隆行	神戸博愛病院
安本昭久	陳瑞華	江賦春	矢野正行	池田久仁子	堺屋和夫	村井美紅	三江会館(株)
一木仁	石進通	林同福	池田雄二郎	莊天輝	塩田茂子	芹田健太郎	東栄商工
黄禹生	李琛	陳明德	青山史眞子	青木明	吉川政和	半田憲治	中華会館
許永坤	日高隆義	阪井一命	石玉球	永倉弘一	平野勲	幸田悦麟	

編集子より 今号の刊行が遅延したことをお詫び申し上げます。新感染症禍の中ですが、次号は予定通りの刊行を目指しております。